

日本大学工学部

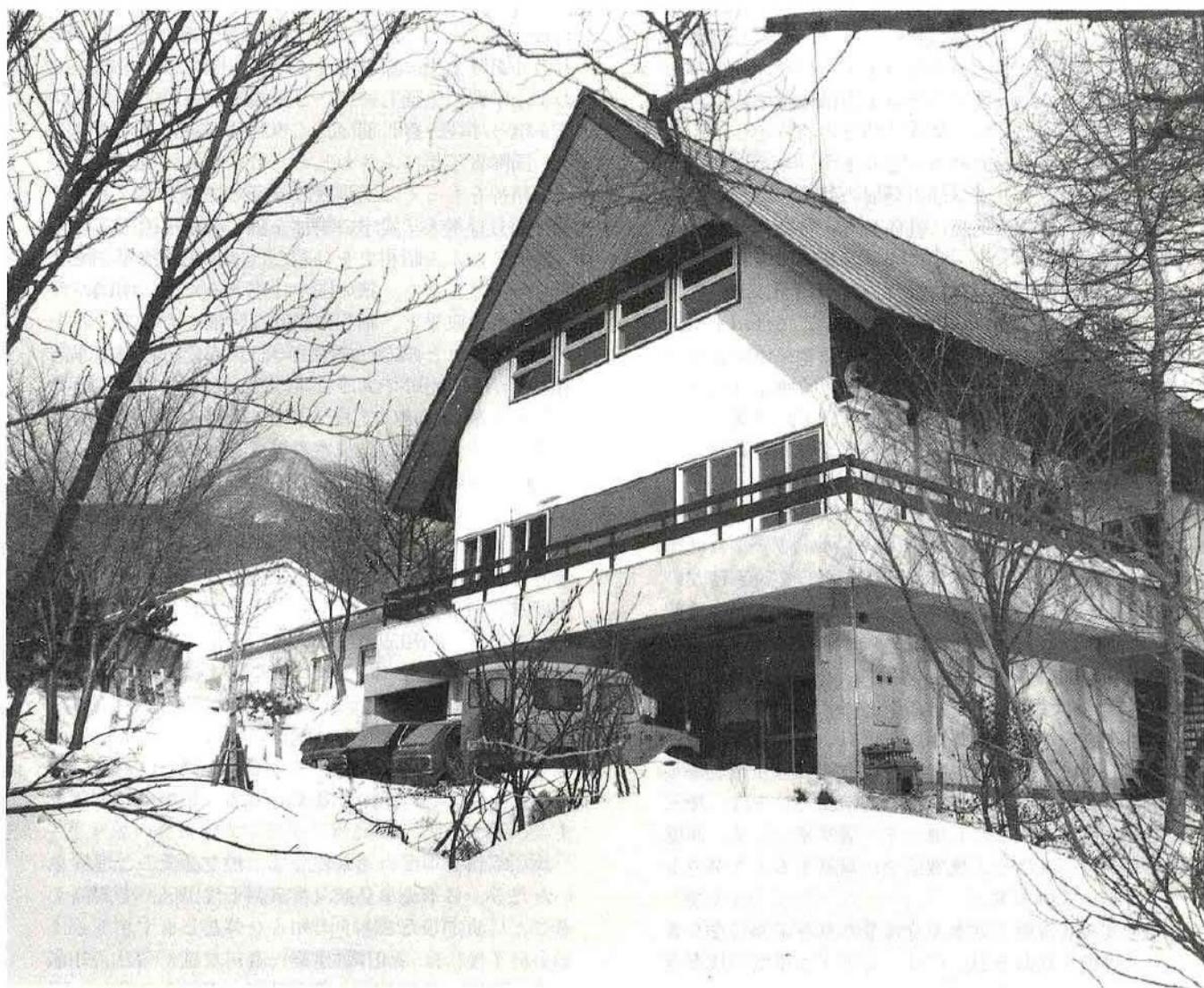
校友会報

第 45 号

昭和60年3月1日

目 次

ごあいさつ(工学部長、校友会長).....	2
思い出.....	3～5
第4回母校を訪ねる会.....	6～7
支部・同窓会だより.....	8～9
校友短信.....	10
キャンパスミニメモ.....	11
総会・謝恩会通知、奥書.....	12



日本大学東磐梯寮

福島県耶麻郡猪苗代町グミ沢原7092-8

電話 (02426)2-2567

[利用者の連絡先 校友→工学部庶務課
学生→工学部学生課]



ごあいさつ

日本大学工学部長
本郷忠敬

校友の皆様には、全国各地はもちろんどく海外にまで進出して、先端技術の開発をはじめあらゆる分野において、目覚ましい活躍をなされており、心からお慶び申し上げます。

本年度も新たに卒業生が東立つ時期になりました。新しい卒業生は新鮮な職場で希望に胸を膨(ふく)らませ、先輩の築かれた業績を見習い、母校のために精進して頑張りたい。また先輩の皆様には、これから後輩を励まし導き育てて頑張りたいと思います。校友の社会における永年の活躍の成果は、そのまま母校工学部の名声につながり、また母校の発展は校友の誇りとして、社会での活躍の大きな原動力になります。お互に密接に連繋・協力することが学部の発展の基礎と信じます。

私も昨年7月に学部長に就任して、最初の卒業・入学の時期を迎えるました。歴代の学部長が残された数々の偉業を受け継いで、特に教育・研究の面において、更に一歩前進してまいりました。それには、まず今までよりもなお一層教授陣の充実と教育・研究設備の拡充に努めなければなりません。また拡張より内部充実に力を注ぎ、大学生を定員に近づけて、できるだけはやく適正規模な学生数にして、学生の学力の向上と教育効果の向上を計りたいと存じています。

本年も卒業生の就職については、業種によって多少の差違はありましたがあ、多数の学生が一流企業に就職し、ほぼ満足する結果を得ました。更に今後も校友の皆様には、学生の就職について、特にUターンを希望する学生のために、地方都市の求人開拓には、格段のご協力をお願いいたします。

なお、本年は郡山市を母都市とする地域のテクノポリス指定の申請をする時期になっています。該当地域に理工科系の大学または研究所があることが指定の条件になっています。この機会に工学部としては、地元企業との協力を以前にも増して一層緊密にして、高度技術の開発に寄与し、地域社会に貢献するよう努力したいと思っています。

56年度の北桜祭のときから行なわれるようになりました「母校を訪ねる会」には、該当する年度の校友だけでなく、それ以外の年度の方も多く訪ねられています。いずれも参加された校友は皆一様に母校の発展ぶりに感嘆し、誇りを感じていただけたようです。また今年もお会いできる日を楽しみにしています。

校友各位には健康に留意され、益々活躍されることを祈念します。

(日本大学教授・工博・工学部校友会顧問)



ごあいさつ

日本大学工学部校友会会长
武田仁幸

昭和60年を迎え、謹んで会員の皆様のご健勝とご繁栄を衷心よりおよろこび申し上げます。

昭和年号も還暦を数え、明治は更に遠くなりました。今年も本会発展のため、本賞と本筋を遠ざめ見究めて努力いたす所存ですので、皆様にはご指導ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、今年は「国際青年年」です、この意義深い年に母校を卒立たれる新会員に、心から慶祝の意を表するものであります。諸君は、小学校入学以来、十数年におよぶ学習の生活も終え、ご両親をはじめ、社会の期待を抱いて各分野に羽ばたく専門技術者の星であります。国際青年年にふさわしく、若さと広い視野と、奉仕の精神をもってご活躍され、そして頼わくばどんなときでも日本大学建学の精神を胸に頑張って下さい。

60年におよぶ昭和史をひもとけば、昭和20年を境に明暗を分けました。狭い国土に生きるため、明治が育んだ教育の成果と、昭和の勤勉な労働をもって、非を可として日々と励んだ結果、今日の安定した日本を創ることができたのであります。しかし、世界の各地では混乱と争いが続いている。世界中の人々が平和な暮しができるよう、日本の果さなければならない責務は、益々重大になってくるでしょう。

東京、札幌両オリンピックを開催し、大阪の万国博覧会、神戸のポートビア、そして今年、つくば85・科学博覧会が開催されますが、この開催企画の一翼を担う校友に拍手を送りその成果を期待したいと思います。

ところで、昭和59年度は、日本大学の役員に大巾な改選がありました。本部では、高梨公之総長を迎え、工学部では、本郷忠敬教授が学部長に就任されました。総長はじめ、学部長ならびに関係各位には、旧来にも増して、校友会への深いご理解と高い評価をいただいております。ここに感謝の意をもってご報告申し上げます。

次に昭和60年度の通常総会は、校友諸氏のご理解をいただき、日本大学会館（東京都千代田区）で開催することに決定したことをお知らせいたします。さらに総会終了後には、倉田博（建築）、廣川友雄（一般）、外木有光（機械）の三先生をお迎えして、謝恩会を催し、例年の懇親会ともいたします。ご承知のとおり、三先生は、郡山学園創設以来、昨年退任されるまで、37年の長きにわたって工学部の発展に貢献されました。皆様には、ご多忙中と存じますが、多数の方々のご出席をお待ちいたしております。

(土木工学科3回卒、東和工業(株))



思　い　出

辻建設(株)名古屋支店 東　松　毅
取締役建築部長

昨年の10月20日、日本大学桜建会愛知県支部の総会があり、理工学部から次長と生産工学部より宗先生、工学部より池田先生と外山先生を迎えて、名古屋の観光ホテルにて行われました。

今回の幹事会社が私の会社だったものですから案内状の発行から始めて色々準備に名簿の作成整理等に忙しかったものでした。当日も先生方の送り迎えも仰せつかり大変でしたが、開催の時間は少々遅れましたが何とか始まりました。会員も50名近くも集まり幹事会社としては何とか面目がたった様です。各学部の先生方の大学の近況等の話を聞きし、なつかしく思い、また私共が在学中の学校の施設並びに研究課程や、海外との交流の会合とか色々な面で大変時代の流れの移りかわりの早いのに驚きをおぼえました。又今の学生は物質面で我々の学生時代と違い、裕福になったものだと痛感しました。それに伴い精神的な問題も違った意味で変ってきてているのではないかなど感じました。

総会の次第も終りに近くなり、懇談となり各学部の先生と会員とが三三五五集団をして、なつかしい思い出に話を咲かせておりました。工学部の後輩達も7・8名来てくれましたが、皆建築に関係しているので何らかの仕事上の接触もあって、意外と近くにお会いお互に解らなかったこともあります、近親感をもちました。

外山先生と私は同期生で、卒業してから以前に大学で1回お会いしただけですから、今度で2回目で10何年ぶりに再会出来たわけですが、お互にもう50歳近くなっているのに昔の学生の頃の話になると、時計が逆回りになった様に色々の事が思い出され、走馬灯の様に27年前の事柄が脳裏に思い浮かび、昨日の事かの様に思われました。

総会も無事に終り散会となり、二次会へと行く人、帰る人まちまちになり、外山先生と明日名古屋見物をしようと約束して帰路についた。翌日午前中、名古屋港等と一緒に見学して、昔話も色々と楽しいひとときを過ごし午後名古屋駅でお別れしたわけですが、それがきっかけで、2週間後に校友会から突然手紙がとどき先日外山先生からの紹介で私に校友会報に掲載したいので、一筆原稿を書いてほしいと云われ、一時はおことわりしたのですが、ずるずるとお引受けしたわけですが、何を書こうかと迷い、色々考えたのですが、私

どもは建築技士なので施工や設計の経験の苦勞話してもと思いましたが、あまり硬い話じゃなく、校友会の皆さまが学生時代を過ごした時の色々な思い出を呼び起す意味で、私の学生の頃の話を雑談しながらたどつていきたいと思い、校友会報に掲載することにしたわけです。どうぞよろしく……。これを機会に会員の方からのお便りをたのしみにしております。

*きっかけ

私は昭和29年度の入学生で、今も年度制になっているかわかりませんが、その当時は入学年度で呼んでおりました。卒業年度で云うと留年する人も当時は色々ありましたので、人によって卒業年度が變るのでそうしたのかもしれませんが……。これは余談です。

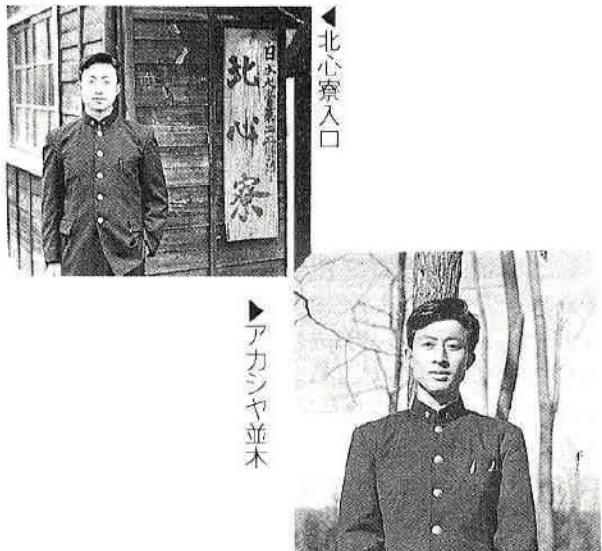
郷里は北海道の札幌です。たまたま、日大の工学部の入学試験が出張試験で札幌で行われていたので、私は国立大学も受験したのですが、日大の試験の方が早く行われるので小手調べにと思い受験したのです。

高校は札幌南高校で普通科だったものですから、なぜ建築学科を選んだのか話をしたいと思います。親も建築関係にはたずさわっていました。高校時代は洋映画がはやっており、西部劇や恋愛もの等色々ありました。土曜日の午後は友人と一緒に良く見にいったものです。高校2年頃だったと思いますが、摩天楼と云う題名で、ゲーリークーパー主演の映画を見たのがきっかけです。自分が設計した何10階建のビルを完成了時の喜びと、華やかな完成記念パーティーの舞台での主演男優の姿にまったく魅了されてしまい、自分の進路もこれだなあと思ったのです。はなはだ簡単なキッカケで建築を選んでしまったものです。と云う理由で受験し合格、国立大学はすべて日大に行く様になったのです。学校には寮があると云う事で親からも離れるのが初めてだし、集団生活も自分の為だと思い申込みました。学校からOKの連絡があり、単身で上郡したのが北心寮との出会いでした。

*北心寮の思い出

たしか桜の咲く時期4月の入学、アカシヤの並木のある通学路を通って、初めての北心寮にたどりついた。第1印象は建物にビックリ、平家の木造で中廊下で両方に部屋が並び廊下の長いこと、土足のままどんどん入って行くとだんだん暗くなり、薄気味悪く突当っ

て右に行くと左側に大きな食堂、古くさい木製長テーブル、厨房、賄と云つた方が良い土間コンクリートで一段下った所、食堂との境にはカウンターがあり網戸がはまつていてちょっと不潔そう。更に奥に入つて行くと右側に大浴場、大きな木製の風呂、天井が高くて寒々した感じ、初めて見るもの全てが奇異を感じるものばかり。又戻つて入口の方に倉監室があり、そこに老夫婦がいて挨拶をすまし、部屋も決つてゐる様で案内された。後で聞いた話だが昔の兵舎を利用して寮に使われる様になつたらしい。校舎も皆軍の払い下げの様である。



新寮生は電気、機械、化学、建築、土木と5学科の学生が割と均等に入つてゐる様だったが、先輩は少なく各学年10数人しかいない様であった。

新寮生は90人ぐらい入り全寮生140名弱ぐらいだったと思う。私は2年先輩の水野氏(機械科)と同室となつた。神奈川の横須賀の出身で、非常におとなしく、女性的な雰囲気のする人だった。当時小生も体はやせていて小じんまりとしていたので同じ様におとなしく見えていたに違いないと思う。だか割と気が合ひ何とか寮生活がうまくいく様に感じた。しかし何日かして解ってきたのですが、寮の先輩方は体も大きく、まさに大人で男であると云うモサそろい、夜になると酒を振るまって、例の薄氣味悪い廊下を闊歩するのである。それだけなら良いが各部屋の扉をたたいたりし、又はだまつて入つて來るのである。ただできえ怖い先輩に夜な夜な悩まされたらたまたもんじみない、親元から離れ、初めての寮生活経験はこの怖さからはじまった。

後から聞いた話しだが、大学に6年も7年も在籍があり予科練上りのモサが何人か居つて、後輩を教育したとかでそれが順次受け継がれ寮生気質が身について来ているらしい。なるほど今の先輩も以前は今の我々の新寮生と同じ様に怖かったんじゃないか、その繰り

かえしをしているんだなあ、と思いはじめて來たら意外と楽にはなつて來たが、最初の1年は本当におそろしいの記憶しかない。

寮生の一日は朝の洗面所から始まる。皆各人洗面道具を持ち洗面所に向う。その姿は皆まちまち、先輩方は寝巻のままとか冬になるとドテラ姿、謂わゆる綿の入った着物で帶もろくに結んでなく、だらしの悪い格好の人から、先輩でも色々あり、キチンとした人も居つたが、下は下駄、サンダル、セッタ等、千差万別で色とりどり、今考えると、おもしろい光景である。当時はまだプラスチック製品が少なく、洗面器もアルミのものでその中に洗面用具を入れて廊下を歩くのである。ともすると明治時代の書生の様である。ここで云うのはどうかと思うが、まず寮生は廊下で会つたら必ず挨拶をせよと教育されていたから、特に先輩と出会つた時は大きな声で“オス”的いきつをしなければいけない。だから廊下は下駄の足音と“オス”的いきつで騒がしい音から始まると言つても過言ではないのである。又その雑音を目ざまし時計がわりにしている寮生も多かつたのではないかと、今考えると思える。

それから朝食へと食堂に向う。各人食券を手にし、食券の値段は憶えていないが何せ安かったと記憶している。スタイルと云うと洗面所に向う格好と一緒にの人、朝の訓練での柔道着の者、その当時空手が盛んだったから……。新寮生は学生服を着てくるし、ドテラ姿もあり、又各々食べる格好も違う。長椅子に片足をかけて中腰になつてドンブリ飯を口に運ぶ人やら、何やら大きな声を出して立つてドンブリの味噌汁をする人、これらのスタイルは全部先輩達の一部であり、昨夜の一杯飲んだ話やら、女の話まで出て、得意げに話しているのである。この中に夕べ廊下を大声をあげて通つたのがいるんだなーと、小生は横目で見て見ぬ振りをしていたものである。賄には丸坊主で眼鏡をかけたおじさんと、やせ型のお盆顔し、あごの角ばつた、おばさんがいた。名前は忘れた。朝食は決まってドンブリ麦飯に。ドンブリ味噌汁と漬物はタクワンが多かつた。もちろんセルフサービスで、生玉子を持参でくるもの、梅干持参のもの、色とりどりで漬物のタクワンを2つもつて行くのは先輩だけである。色々先輩の悪口ばかり書いてゐる様であるが実は自分も上級生になると、ほぼ同じ事を真似していたのだから大きな事は云えないが、これは多少違つてはいたものの順送りで寮気質が出来上つていった様である。

しかし若かったせいでもあるが、大勢で食べるせいでもあるか、ドンブリ飯はおいしく、ほとんど残さず食べた記憶が残っている。現在では朝食はパン一切か、二飯なら軽く一杯しか食べられないのに當時がなつかしい。

それから授業を受けに登校するのである。新入生は朝からピッチリ授業があるが、上級生は我々が登校す

る時に起きて来る者がいる。サボリかなーと最初は思ったが、専門科目になると選択科目になるので人に上って違う事も後で解った。

寮と教室は目と鼻の先で非常に楽である。カバンの中に本を一杯入れて登校していた高校時代と違って本とノートを裸で持つて行けるのである。時間もぎりぎりまで寮に居られるので朝も余裕がある。だからその間天気がよければ洗濯も出来る。自分で洗濯をした事がないのにようやったものだ。当時は洗濯機も脱水機もない、バケツに洗濯用圓形石けんでゴシゴシやったもんだ。最近はそんな石けん見た事がない。粉石けんばかりの様だが?、だからよく、石けんの香りでいっぱいの手をして授業に出たものだった。

昼食はやはり寮の食堂だ。ここでも朝食の時と同じ服装で来ている先輩がいる。だから午前中は部屋で寝ていたのであろう。寝ては食い寝ては食いしているから体も肥えていて健康そのものに見えたものである。

寮室は2人部屋と3人部屋になっていた。畳敷きで6帖と8帖だったと思う。押入は3尺のが1コずつ片開きである。廊下から外開の扉を入ると踏込が3尺角それからすぐ住である。窓は巾6尺の引違いの腰付窓が1つついてあり、窓の両脇が各々の勉強机と本棚が置いてある。その頃は大半、座机が多かったが皆改造して机足に棒を繋いで腰掛机にして椅子だけ買って来て間に合わせている人もおり、小生もすぐ真似をしたものだった。しかし我々の3年下の後輩達は経済状態の景気がよくなつて来たせいか、最初から腰掛机の新品を持って来たのも良く見受けられた。部屋の中もこれ皆入によって千差万別、万年ぶとんで、枕元に本やタバコや灰皿等散らかしばなし、足の踏場もないものから、キチンとしているものもいたが数は少なかった。寮生は沖縄から北海道までバラエティーだったが、やはり東北関東の人が多くいた様だ。だからフトン一つ取り上げても、フトンの厚さ、大きさなどが多少違つて思えたりし、日常生活の違いなんかも考えさせられる点があった様に思われた。

夕食が終つてから風呂に入る。別に入浴規定に誰から入ろうとかまわないのだが、新寮生はやはり遠慮して遅く入る傾向があった。だから風呂の湯をかきまわすのは先輩が多かった。未だ湯気もない寒々とした風呂に入るのはバンカラ先輩が多かったのである。又あまり遅くなると湯の量が少くなるので適當な時間を見はからって行かねばならないのだ。

夜の娯楽と云えば何があつただろうか。テレビもステレオもなかったからラジオだ。当時はラジオも皆が持つていなかつた。今みたいにコンパクトなものではなく割に大きかった。小生も2年目になってほしくなり電気科の同期生に教つて自分で組立てた記憶がある。秋葉原のアメ横に行き一つ一つ部品を買入し、ケースも當時としてはモダンな型を選びオールウェーブ等と

云つて外国の放送も聞けるしろものだった。金も大分つかった様だ。後はトランプ、マージャンは禁止でやつてろ者はいないようだつた。

夕食も決められた時間だったので早く食べるせいか8時頃になると夜食の時間だ、湯沸室もどきの部屋があり電気コンロが何台か置いてある所があつて各自作り始めるのである。今はインスタントラーメンがあるから簡単だが当時はない。スルメ焼が多かったかな?ウドンを作るもの、中にはカエルまで料理するものもいて小生も口にした事がある。又赤犬の肉(近所にいた犬)を鍋物にして野菜と一緒に食べたが肉のあぶくが多くて氣持が悪くなつたりした事もあった。

消灯の時間は決つてはいたが守らない者もいた。隣部屋とはベニヤ板のタイコ張りになつてゐたので、穴を空け隣の様子をのぞいた。だから女人禁室になつてゐたがかくれて連れて來たりすると覗けておもしろかつた。こんな様な寮生活も1年過し2年生となると10名ぐらゐしか寮に残れず又新寮生を入れるのである。小生も寮に残れたので例の先輩格となり3年生では寮長も務めたのである。又1年でこんな怖い寮よりはと云つて自由な下宿生活が良いと云つて出ていった者も少くはないでしょう。もう一つの思い出は年1回の寮祭である。ファイヤーストームを用ひ氣勢を上げて校歌、応援歌、寮歌を歌わされるのであるが、その頃はつらい時もあったが、現在でも歌詞を見ずに歌えるのはその時の歌であつて、流行の演歌の歌詞はちつとも憶えられないのである。

寮生活も2年3年となると親父になつた様な気がしてくるものである。下級生にとつては怖い存在ではなかつたかと反省したりして下級生には接した積りだつたかどうだつただろうか。成人式も終え一人前に酒もタバコもおぼえ良く遊びにも行つた。阿武隈川の堤防のほとりに通称“チャンバ”と云つて雑貨から酒も欲ませる所があつて良く出かけていたもので、今はどうなつてゐるだろうか。その頃は新興住宅の1角で寮から歩いて6分ぐらゐの所であった。飲んだ帰り道は気分が良かった。しかし寮に帰つたら先輩の様に寮の扉をけつとぼす事はしなかつたが、同室の後輩等には迷惑をかけた事もあつただろうと今になつて反省している。現在も尚年賀状が届いているのは最後まで寮に残つた者なのである。寝食を共に同じ屋根の下で生活すると云う事は大切だなーとつくづく思います。そして又共同生活は自分にとっても良い面がたくさんあると今でも信じております。色々と勝手な事を書いてしまつた訳ですが、書いている内に27年前に逆回りしてしまつて当時の写真等も引く張り出して懐古してしまいました。校友の皆さん元寮生の皆さんからの便りもこれを機会にいただけたら幸いでございます。

(建築学科6回卒・)

第4回「母校を訪ねる会」を開催

母校の発展に目を見はる

昭和59年10月21日(日)北桜祭最終日に第4回「母校を訪ねる会」が工学部と校友会共催で開催された。今回は11、12回生が対象で、前日までの雨もあがり、北桜祭が最高潮に達している中、学内見学をしたあと、玄関前で吹奏楽部によるドリル歓迎演奏を受け、校庭で記念撮影を行った後、中講堂中会議室において懇親会が



母校を訪ねる会に参加して

長野正熙

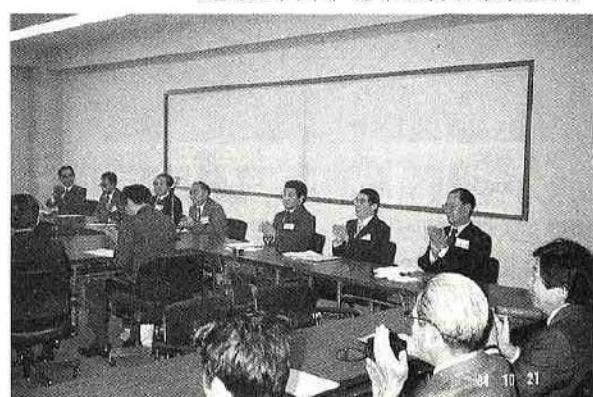
卒業してから21年たちましたが、こんなに立派に我が母校が発展しているとは夢にも思いませんでした。寒い地方なのでおそらくこれ以上の発展はのぞめない大学だとたかをくくり、卑下しておりました。又理工どちらがい勤めてからも郡山の日大ですといってあまり知っている人は少なく設備も不十分だし校舎も古く自慢の出来る所はなに一つない大学だったと今日まで思い、たまに暇が出来たので面白半分当時の友人（今もつき合っている親友）をさそって遊びがてら熱海温泉で一泊するつもりで出かけましたが、母校に着いたとたんそんな気持の自分が恥ずかしくなりました。又諸先生方の手厚いもてなしを受け感謝にたえません。これからは胸をはって母校の自慢が出来るることは私にとって非常にうれしく、もやもやしていた心が一ぱんに晴れた様な気持になりました。そして今度は母校に恥じない様自分をみがかねばならないと再度気を引きしめさせられました。小栗先生や橋本先生に最後までいろいろと校舎を案内していただき、新井君には日大

開かれた。本郷忠敬学部長、武田仁幸校友会長の挨拶のあと各回の校友を代表して、11回生では光山高弘（機械）、12回生では成島高偉（土木）両君の挨拶があった。引続き隣の大會議室において石田昭二工学部事務局長の乾杯の音頭で懇親会に入ったが、学内のスライド映写が始まると、在学当時と現在の発展振りを比較しながら熱心に見入っていた。そして校友、恩師、学部役職員、校友会役員が一体となって昔話や現在の話に花を咲かせた。今回は69名もの出席者があり各科の校友の方からそれぞれテーブルスピーチをいただき、終始なごやかなうちに懇親を深めた。

最後に全員で校歌、若きエンジニアの歌を合唱し、宇野原信行教授の万才三唱で幕を閉じた。「母校を訪ねる会」の前夜、機械11回（歯車会）と土木12回は同級会を開きました。次回の対象は13回生を予定しておりますが、それ以外の方でも良く御出席をお待ちしております。

の研修会館に泊めてもらいました。遊びに来た気持などどこかにすっとんでしまい、感無量な気持にひとりつつ帰路に着きました。ありがとうございました。

（建築11回卒、藤木工務店東京支店）



藤田協右

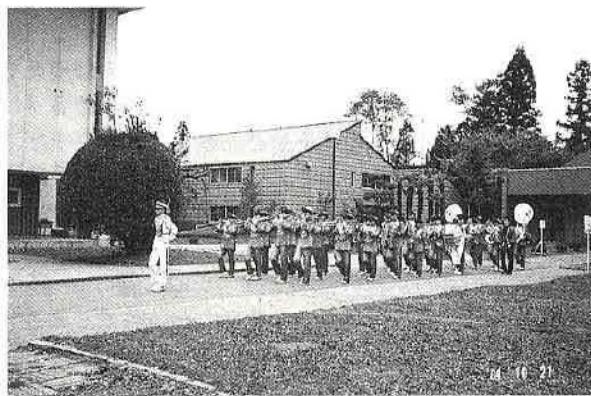
卒業して早や20年が経過し、各人が20年前の想い出を胸に10月21日母校を訪ねました。

参加者すべてが異口同音に言ったことは“ずいぶん立派になったもんだなあ”の言葉でした。

本造のオーポロ校舎、講堂、食堂も面目を一新し、

20年という歳月の長さを改めて知らざるとともに、これまでに整備なされた先生方をはじめ関係者各位の並々ならぬ努力に感謝致します。

「衣食足りて礼節を知る」という言葉がありますが我々の時代は「衣食足らず、礼節までは手が廻らなかった」の感無きにしもあらずで、いまがうらやましくもあります。



現在は、ハードからソフトの時代になったと言われる大学も内容の充実が叫ばれています。時代の要請に応えられるよう、先生と学生が一体となって努力し、多くの優秀な人材が輩出されることを期待しています。

(土木12回卒、静岡県商工部テクノボリス推進対策室主任)

〔事務局便り〕

工学部校友で本部の役職などについている人は下記の通りです。

学校法人日本大学

評議員	松山光克（土3回卒）	62年9月まで
協議員	武田仁幸（土3回卒）	61年11月まで
日本大学校友会		
副会長	武田仁幸	62年6月まで
常任委員	半沢 忠（化6回卒）	62年6月まで
委員	松山光克	62年6月まで



『母校を訪ねる会』について

事務局

昭和56年春、工学部当局と校友会役員が会合した折に、当時の廣川学部長が「学園全体があまり整備されていない時に卒業していった校友に、現在の工学部の姿を見てもらうようなうまい企画がないか」と言われたのが「母校を訪ねる会」のルーツです。サケが何年か後に、ふる里の川にもどってくるように、20年経ったら母校を訪ねてみようと計画されたものです。

今までに、56年（専門部1、2回、第二工学部1～3回）、57年（4～7回）、58年（8～10回）、59年（11、12回）の卒業生に来てもらい、200人以上の人蔵が参加してくれました。

今後は、60年（13回）、61年（14回）と言うように卒業してからちょうど20年目の秋に招待しますから、該当するクラスの人は、同級会なども併催して、集まり易いように準備をして下さい。学部祭は毎年10月20日ころの日曜日が中心に決っています。この「訪ねる会」が今後ともに意義あるものとなって継ぎますようにご協力下さい。

辻建設株式会社



本 社 富山市内幸町6番1号

電 話 (0764) 41-2811

名古屋支店 名古屋市千種区姫ヶ池通3-28

電 話 (052) 763-5111

支部・同窓会だより

第4回 九州支部総会

支部長 矢 保 敏 之

第4回日本大学工学部校友会九州支部総会を、博多山笠のまつだ中に市内城山ホテルで、59年7月13日に開催しました。年々我が同窓の関心も深く、今回は70余名の参加をみました。

総会の後、懇親会に入り、新役員の紹介に続き、武田会長の挨拶があり、校友会及び工学部の近況や活動方針の発表が、あのなつかしい話術でしていただき、参加者全員親しみをもって聴取したものです。

次に先生方を代表して挨拶していただいた小倉先生からも、最近の学生の質及び工学部の動向など、皆年々立派に整備されてゆく我が母校の姿をたのもしく聞き入ったものでした。

乾杯のあとは、20年ぶりに仲間に会い話をはずまる者、遠く熊本・佐賀より出席し声高々に自己紹介する者、先生と友達の様になつかしく語り合う者……。これが日本大学工学部の本質だと感じさせる最高の雰囲気に盛り上ったものです。

最後に全員で校歌を声高々に齊唱し、皆思い思いに喜びを胸の中に秘め、明日からの英気に成ったことでしょう。

(建築8回卒・株大林組福岡支店)



工業化学科第1回卒業生集まる

杉 原 潤

昭和59年10月20日、郡山の「生粋」において、工業化学科第1回卒業生の同級会を行いました。宇野原先生に御出席戴き、上石、岡村(次)、岡村(公)、高坂、杉原の小人数でしたが、それだけ親密に話し合うことが出来分別盛りのような顔をした連中も、しばし昔の悪童達に戻って、時の経つのも忘れて歓談しました。

第1回卒業生と言えば、昭和28年3月の卒業ですから、子供達が頂度大学生位になっています。中には娘の縁談を頼む者もあって、30年の時の流れを感じずにはいられません。思えば、この30年間に、日本は世界でもトップクラスの工業国となり、明治以来の悲願で

あった、国際収支の黒字化も達成しました。

日本の国力が、今日程充実したことはありません。木造の校舎と貧弱な実験設備であったにもかかわらず、大御所の篠崎先生や新進気鋭の先生方の御薦陶を受けて巣立った我々でしたが、大いにやり甲斐があったと言えましょう。これからも頑張ります。忙しい者が多く、「母校を訪ねる会」に参加出来なかったのは残念でした。尚、同級会の開催に当たり校友会事務局の方々には、大変御世話様になりました。厚く御礼申し上げます。

(東光(篠崎)玉事業所)

第2回卒業生同期生会

後 藤 尚

第2回生は5学科全員で41名と少ない数であることから、卒業して30年の歳月を経たのを機に5学科全員の同期生会を59年11月17日(日)磐梯熱海で催した。

全国から22名が相集まり、卒業以来初めて逢う人、時折り逢っている人など、皆30年の顔をもった同期生が、学生時代に戻り一時を楽しく過した。近況やら、経過やら家族のことなど、また第2の人生に入ったことなど各人の話はつきなかった。皆一夜の集まりであったが、満足感にひたり、次回の幹事などを決め、再会を約して散会した。(化学2回卒・工学部教授)



機械第11回卒「歯車会」同級会

織 田 三 朗

昭和38年に卒業して以来21年の歳月が経っておりますが、この間個々に親しい仲間が集って懇親を深める集まりは東京を中心に開催されておりました。57年4月に上野の西郷さんの銅像前に集まろうと有志が声をかけたところ、人伝いに聞いたという人を含め29名もの同級生が集まり昔話に花を咲かせましたが、昨年も同じく上野で正式に「歯車会」としての同級会を開催しました。その席上、遠路出席された菅野先生より来年(59年)は校友会で母校に招待して下さるとの話を伺い、それでは次回は郡山で盛大に同級会を開催しようと、郡山での再会を約束しておりました。

今回10月19日よりの北桜祭に合わせて正式に母校を訪ねる会のお招きを受け、10月20日に郡山市内の「熱田家旅館」に北は北海道の釧路から南は九州の別府まで総勢32名が集合、先生方も外木・一色・柳沼(福)・佐藤各先生のご出席をいただき盛大に「歯車会」同級会を開催することが出来ました。

翌21日はご招待による母校を訪れ、立派になったキャンパスをまのあたりにして感無量でありました。特に資料館では我々の卒研の資料が展示されているのを見て、又玄関前では後輩によるドリル演奏の校歌を聞いた時は、目頭があつくなるのを感じました。

母校も立派になり、又郡山の市街も20数年前我々が学生生活を送った頃とくらべると別世界に来たようで、特に郡山駅の立派なこと、駅前の変身ぶりには大変驚かされました。次回(61年の予定)の歯車会の幹事を決め、再会を約束し新幹線で思い出の郡山をあとにしました。

最後に「母校を訪ねる会」を企画されました学部当局と校友会事務局に対し、厚くお礼申し上げます。

(大富士瓦斯(株)吉原工場)



土木12回同級会について

幹事 鈴木宣孝

我等土木12回同級会は、2年おきぐらいに開催しており、昼はゴルフコンペ、夜に同級会、とバターンがきまっています。この様に定期的に開催できるのも村田君が大学におり、中心となって連絡を密にしているからだと感謝しております。

この度は母校を訪ねる会への出席を兼ねて、日大研修会館で開きましたが、母校や郡山市の発展の様子を話しながら楽しく一夜を過しました。今後もこのベースで永く続けてゆきたいと思っております。

(福島県土木部)



第5回 後藤同研会を終えて

伊藤 嶽

59年11月10日、池袋のサンシャイン・プリンスホテルで、第5回の後藤同研会が盛大に開催された。この後藤同研会は、工業化学科の後藤尚教授の研究室出身者を中心として構成され、現在その数は250名を越えている。

59年2月に、事故のため急逝された、故正木鉄耀氏(12回卒)が発起人となって、10年前にその第1回の会合が行なわれている。2年に1度、後藤教授をお招きしての開催は、今年でもう5回目を数える。

今回の参加は約30名。各諸氏の近況報告、業界の情報交換、さらには学生時代の思い出話と、今回もまた大いなる盛り上がりを見せ、次回郡山での再会を約束して閉会した。

(化学4回卒、(株)朝日ラバー)



九州支部アカシヤ会(ゴルフコンペ)

矢俣 敏之

第4回九州支部総会の当日、第10回アカシヤ会を開催。昨夜来降り続いた雨も上り、絶好のゴルフ日和のなか、7組28名の我同窓のつわものによる競技を、景勝地にあるセブンミリオンC.C.で行ないました。

今回が記念すべき10回目に当たるため、武田会長杯の「取切り戦」となり、皆、日頃鍛えた腕をきそい合い、わきあいあいの中にも厳しい勝負に興じたものです。

武田会長は「時差」の調整と焼酎が原因か、スコアを乱され、我々後輩に安堵を与えてもらいました。それに反して、村田先生は、時差や後輩などに対するものぞと普段の実力を發揮されたのが印象的でした。

成績上位もドライバーのみに賭ける人、馬券のみの人、日頃の自分の実力以上を出そうと益々深みに入る人、天候のせいにできずにパートナーのせいにする人など色々でした。

成績発表は懇親会の席で行ない、仲間より祝福を受けました。これからも3ヵ月に1回の割合で開催していく予定です。

(建築8回卒、(株)大林組福岡支店)

校 友 短 信

土木工学科

◆原田 悅 (15回卒、新太平洋建設株鉄路支店土木課長)

昭和53年から当地で勤務しています。7月には札幌での校友会北海道支部総会に出席し、久しぶりに旧交を暖めました。

◆坂 正典 (旧姓大樂、20回卒、株熊谷組)

中近東支店のイラン・クーランギ作業所次長として勤務しています。 (59.10.11受)

建築学科

◆高橋 透 (22回卒、株間組東南アジア支店)

マレーシアのクアラルンプールへ転勤してから2年が過ぎました。ここは今、建築ラッシュです。日本では考えられないような工法構造で超高層ビルがどんどん建っています。日本のゼネコンも各社入ってきています。近い所で校友が働いているのでは?と思っています。 (59.10.2受)

機械工学科

◆井口弘貞 (11回卒、帝人製機株松山工場技術課長)

9月24日から約1ヶ月、中国の天津市に出張です。1973年以来これで16回目の中国出張です。我々の時代と異なり、母校が益々発展しているのを知り、うれしく思っています。 (59.9.14受)

◆八幡原正修 (11回卒、石川島造船化工機株化工機事業部品質管理部)

最近の造船・プラント業界の不況で受注合戦です。Cost Downと四苦八苦の毎日ですが、20年ぶりに母校を訪ねることができることを楽しみにしています。 (59.9.25受)

◆山口隆也 (11回卒、長崎県教育センター)

卒業と同時に地元長崎県に帰り、教職に就いています。工業高校に16年勤め、現在は長崎県教育センターで、中学校の技術・家庭に関する仕事をしています。校友会報を送っていただく度に、郡山を懐かしく思い出しています。 (59.10.1受)

◆河原公明 (12回卒、株東京機械製作所技術部次長)

壳上の半分がUSAへの輸出のため、海外へ出る機会が多く、いそがしくやっています。 (59.10.11受)

◆江古憲昭 (22回卒、日本電信電話公社関東電気通信局土木工事部第1工事課)

「科学万博」の会場内情報通信用管路 (内径75mm銅

(校友会の事務局へのお便りや、連絡などから)
無断で掲載いたしました。ご了承下さい。

管及び硬質ビニール管)埋設、マンホール築造(光ケーブル、メタルケーブルの接続と分歧用)の設計を担当しています。9月現在、引込管理設工事を残し、会場内光ケーブル、メタルケーブルの敷設作業を始めているところです。私も国際科学技術博覧会に微力ながら協力させてもらっています。

(59.9.28受)

電気工学科

◆相馬 聰 (23回卒、アルバイン株いわき工場)

5年半のアルバイン株の西ドイツ現地法人勤務を終って8月からいわき工場に復帰しました。いわき工場企画部商品企画1課にいます。

(59.9.12受)

◆矢島郁夫 (旧姓吉田、25回卒、埼玉県中学校)

卒業以来、埼玉県日高町の中学校で、技術科教員として頑張っています。今年で8年めです。3回目の卒業生を送り出すべく、3年生の担任として、進路のこと忙しい毎日を送っています。

(59.10.11受)

工業化学科

◆辻 勲 (14回卒、関東精器株吉見工場)

現在、型設計課でプラスチック金型技術管理をしています。日産グループの一員として、モデルチェンジや米国進出の準備など忙しい毎日を元気に送っています。 (59.10.6受)

◆鈴木幸信 (22回卒、東華色素化学工業株)

ジャカルタ(インドネシア)勤務です。家族全員でできています。あと2年ぐらいはいるだろうと思っています。 (59.11.13受)

◆伊藤和明 (29回卒、株カクイチ製作所東部工場)

現在、カクイチ、アメリカINCへ出向しています。ロサンゼルスに居ます。残り2年ぐらいと思っています。 (59.10.9受)

噂のページ

◆新宮清志君 (建築16回卒)

現在、日本大学理工学部海洋建築工学科で専任講師をしておられます。59年6月22日に、「陸・海中に於ける回転体シェルの動的特性に関する研究」で、日本大学(理工学研究科)から工学博士の学位が授与されました。

(西村 孝・土木13回卒)

CAMPUS

mini MEMO

◇理事・評議員に本郷学部長ら

学校法人日本大学の役員の改選が59年9月に行なわれ、工学部関係では次の方が選出され、就任された。なお、任期は3年である。

理事(27人) 本郷忠敬(工学部長)

評議員(110人) 本郷忠敬(工学部長)

片山将道(工学研究所長)

石田暉(工学部事務局長)

◇外木先生が定年退職

外木有光(機) 昭和22年12月1日～59年10月10日

長い間のご薰陶に対して、会員一同、感謝いたしたものであります。

◇廣川・外木先生が名誉教授に

先に定年退職されました両先生に、日本大学名誉教授の称号が授与されました。

廣川友雄 59年7月17日付

外木有光 59年10月11日付

◇廣川先生が郡山市文化功労賞を受賞

一般教育科の廣川友雄元教授は、59年11月10日に郡山市から郡山市文化功労賞を受けられました。

「広報こおりやま」に次のように発表されています。
「昭和22年の日本大学工学部開設以来37年間、教授、学部長など数々の要職を歴任され、学界における研究活動や後進の育成にあたられました。

この間、本市教育委員として教育行政にあたるとともに大学での一般教養講座の市民への開放など本市教育文化の発展に大きく貢献されました。」

◇第27回学術研究報告会開催

この第27回日本大学工学部学術研究報告会は工学部の主催、工学部校友会の協賛で、59年12月8日に工学部で行なわれた。発表件数は157件であった。

工学部の教員や大学院生、研究生による発表が主であったが、当校友会会員で、現在、工学部とは関係のない職場の人による発表は、次の6件であった。

「微生物による窒素・リンの同時除去を目的とした浜松市篠山寺浄化センターの計画概要」

浜松市役所 原田良誠(機15回卒)

「嫌気・好気活性汚泥法の実装置への適用」

川崎市役所 鈴木 熊(土15回卒)

「活性汚泥の乾燥特性について」

理工学部大学院 大内浩之(電32回卒)

「活性汚泥の性状とATP活性度について」

理工学部 松島 昕(土18回卒)

「直立防波堤の越波量算定式について」

生産工学部 遠藤茂勝(土14回卒)

「太正期レンガ造建築物の性状調査(その1 A棟:概要)」 金沢工業大学 浦 憲親(建18回卒)

◇海外からの留学研究生

工学部の海外での名声が高まるにつれて、工学部で研究生活を送る海外からの人が多くなってきています。昭和56年以降には、次の方々が留学研究生として研究を行ないました。

M・ニーメガム(30才) 56年2月～56年6月

インド国立構造工学研究センター

ポリマーコンクリートに関する研究

蘇 貴品(45才) 57年6月～58年3月

中国ハルビン工業大学講師

オーステナイト・ステンレス溶接部の非破壊検査

の研究および溶接部の欠陥検出に関する実験

杜 茂安(37才) 58年5月～59年5月

中国ハルビン建築工程学院講師

接触エアレーション法における接触有効面積
の硝化作用に及ぼす影響に関する研究

金 成淳(48才) 58年9月～59年8月

韓国ソウル中央大学校工科大学土木工学科教授
し尿および下水の併合処理に関する研究—
接触エアレーション法によるし尿消化脱離液
の処理系における硝化機構について

チャンドラカント・G・ドラキア(44才)

59年10月～60年5月

インドPolymer Corporation of Gujarat Ltd.

各種液状樹脂を用いたポリマーコンクリート
の開発に関する研究

(この項、庶務課調べ)

◇増田豊文君が入選

理工学部、生産工学部、工学部の建築学科の卒業生でつくっている「桜門建築会」では「第1回桜門建築学生設計コンクール」を59年9月に行なった。題は、「建築学生交流センター」で、応募資格は59年4月に本学理工系3学部に所属する大学院生、学部生、短大生であること。

大学院工学研究科建築学専攻の増田豊文君(建30回卒)は、このコンクールに応募したところ、多数の作品の中から2等(1点)に入選し、賞状と副賞が贈られた。その入選作品は59年10月の学部祭中に展示された。次回のコンクールは61年に実施の予定だそうです。

(た)

昭和60年3月1日

日本大学工学部校友会会长 武田仁幸

昭和60年度通常総会・謝恩会(倉田・廣川・外木先生)通知

校友の皆様には、各職場において益々御発展のこととお慶び申し上げます。本会会則第28条により、日本大学工学部校友会昭和60年度通常総会を下記により開催いたしますので御出席くださるよう御案内申し上げます。また、総会終了後、昭和59年度中に定年で退任された工学部育ての恩師、倉田 博、廣川友雄、外木有光の三先生への謝恩会を行いますので、皆様の多数の御出席をお願い致します。

記

1. 日 時 昭和60年4月20日(土) 午後2時～午後5時
2. 場 所 日本大学会館(東京都千代田区九段南4-8-24) TEL (03) 262-2271
国電・地下鉄、市ヶ谷駅前
3. 総 会 (議題 昭和59年度会務及び決算報告、昭和60年度事業計画及び予算(案)審議、その他)
4. 謝恩会
5. 会 費 8,000円(三先生への記念品代を含む)
出席者の人数を把握するため出席希望者は予約をお願い致します。現金書留または「振替口座番号郡山5-1990」の日本大学工学部校友会に振込んで下さい。いずれの方法でも自分の会員番号(宛名の左下に印刷されている数字)氏名、連絡先を明記して下さい。〆切は3月25日です。
6. その他の
 - (1) 諸般の事情により、本号に掲載の上記案内によって総会通知と致しますのでご了承ねがいます。
 - (2) 日本大学会館には駐車場はありません。
 - (3) 謝恩会には本郷学部長はじめ恩師の先生方が多数出席を予定しています。

3先生の略歴

倉 田 博



昭和26年6月→昭和59年3月
昭和41年4月 教授

廣 川 友 雄



昭和22年6月→昭和59年7月
昭和38年1月 教授
学部次長 昭和41年1月→昭和42年8月
学部長 昭和42年8月→昭和43年10月
昭和54年4月→昭和59年7月
東北高校長 昭和41年4月→昭和44年3月

外 木 有 光



昭和22年12月→昭和59年10月
昭和38年1月 教授
学部次長 昭和44年4月→昭和48年5月
学部長 昭和48年3月→昭和54年3月
東北高校長 昭和44年4月→昭和52年3月

北海道支部

支部長 長谷川清廣(土14回) 丸松館建設株
事務局長 松久房夫(土19回) 札幌市下水道局

東京支部

支部長 古村和夫(土3回) 古村建設株

東海支部

支部長 平野卓(土3回) 東京エンジニアリング株
名古屋支社
事務局長 河野叶(土6回) 福徳建設株

九州支部

支部長 矢保敏之(建8回) 株大林組 福岡支店
事務局長 陶山順一(建15回) 株陶山建設

校友会報第45号

発行部数 28,800部

発 行 所 日本大学工学部校友会
福島県郡山市田村町徳定字中河原1

郵便番号 963-11

電話番号 郡山(0249)44-1327

振替口座番号 郡山5-1990

発 行 日 昭和60年3月1日

発行者代表 会長 武田仁幸

編集者代表 事務局長 今村仙治

第5回「母校を訪ねる会」

日時 昭和60年10月20日(日)(予定)
対象 第13回卒業生(40年3月卒業)
該当しない校友の参加も可